

# 自分で考え 行動する心

「自主性」を育て、“〇〇したい”を育てよう

## 信じて待つことは 「勇気の芽」を育てる肥料

子どもを信じ、成長を待つことは、子どもの可能性を育てる「勇気の芽」を育む肥料のようなものです。

大人は経験があります。“もっとよい方法”を知っています。つい、我が子が困らないように先回りし答えを教えたり、代わりにやってあげたくなったりします。ところが、これが子どもが自分で生きていく「学びの機会」を奪い取ります。

なかには、親は信じて待っているのに思うようになってくれないというお母さんもいます。これは信じて待っているフリをしているだけで、心の中の心配をがまんして口に出していないだけです。親と子の心の根っこ(潜在意識、無意識)はつながっているので言わなくても親が心の奥で考えていることが子どもに伝わります。

親はリラックスして  
信頼した時、子どもは、  
無限の力を引き出します



今は出来ないけど、きっと出来るようになる。根拠はありません。これが信頼です。

## 自ら積極的に 働きかける積極性

3〜6才の間に「私これがしたいの。〇〇だと思っから」と自分の考えや気持ちを説明してくれるようになっていけば、この自主性が育っています。

この先、小学校に入っ「子どもは自分でできるはず」「自主的に行動できるはず」「ほかの子はできるのに、何で家の子は」と気になるのは、子どもの心の発達に合せたサポートがされてい



いからです。子どもが「自分のやりたいことに目的をもって行動したい(積極性)」に對して、親の不愉快な感情を感じたり過度な嫉妬を受けると子どもは罪悪感を抱きます。つまり、子どもは失敗を恐れるようになります。

親が子どもの気持ちをわかってあげないと、親に喜んでもらうという

## 自己有用感を正しく 理解しましょう

6〜12才頃は自己有用感を獲得できる年代です。「自分には能力がある」と感じられる気持ちです。「私は〇〇ができる!」と思える心です。優越感

目的で自主的に行動しているのに、それを否定してしまいます。また、親が子どもに「早くしなさい」と急がせるのは、子どもが親の都合に合わないことをすること、親が困るからが主な要因です。

自分でできた!の経験をたくさんさせて自主性や人の役に立つという非認知能力(自制心、創造力、社会性など)を育てましょ

## わが家の「こころ」日記

昨年度  
最優秀賞  
サプライズ 東十郷小四年 牧田奈緒



私と弟はピアノを習っています。お母さんの誕生日にサプライズでピアノのプレゼントをするために、ピアノの先生に「ハッピーバースデー」を教えてもらいました。

お父さんと弟とお母さんに見つからないように、こっそり練習をしました。お母さんの誕生日にピアノをひいたらお母さんはうれしかったみたいで泣いていました。来年もお母さんにサプライズをしたいです。

## 支援員から

Q..小6の子が自信をなくしているようで心配しています。どう対応するとよいですか?

A..直接尋ねても、「お母さんは関係ないの」「別に、なんともないよ。気にしないで...」と一蹴されてしまうかもしれない。たとえそうであっても「あなたのことを心配しているよ、なんとかしてあげたいと思うているんだよ」というメッセージは、娘さんに伝わるだろうと思います。それよりも、「どうしたの。おかあさん心配しているのよ」と言って、娘さんをいっぱいハグしてあげてください。

ではありま  
せん。  
この時期、  
同世代の子  
と比べ評価  
されるので得意、不得意  
がわかってきます。不得  
意でも自発的に問題に取  
り組み、努力や工夫をし  
て自分の目的を達成する  
と能力に自信を持ち、次  
の課題に挑戦していく喜  
びをみつけます。

家族は、子どもが「失  
敗してもいいんだ」と思  
わせる家族のサポートや  
励まして、再挑戦し、上  
手く課題を  
乗り越えさ  
せましよう。



(参考書籍)  
「子どもの一生を決める心」の育て方  
山下エミリ 著